

「第8回 I LOVE 遠賀川流域住民交流会」大会宣言文（案）

川辺に足を運べば地域社会が見えてくる、川の風景を見れば、川にたずさわった人々の思いが伝わる、と言われますが、遠賀川流域はどうでしょうか。

悠久の時と共に筑豊から北九州に向けて流れ続け、響灘に注ぐ、母なる川「遠賀川」。わが国で最も早い時代に稲作文化を開花させ、また中世には米、近世から現代までは筑豊から産出する石炭の舟運の動脈として活況を呈し、日本の近代化を支えてきた「遠賀川」。しかし、その代償も大きく、黒い川『ぜんざい川』と呼ばれるまでに傷つきました。

石炭時代が去り、近年、遠賀川はさらに病み、警鐘を鳴らし続けています。上流の山間部では産業廃棄物の不法投棄による地下水の汚染が進み、石炭採掘跡の坑内水が川に流れ込んでいます。住宅地や工場が密集している中流域では生活廃水や工場廃水の問題があります。下流では上水道水源の水質悪化や大雨によって濁流に混じって流れる大量のゴミが河口堰から響灘に向かう海面を覆いつくし漁業にも影響が出ているのが現状です。

そんな、遠賀川の姿に心を痛めた飯塚市の人々による清掃活動に端を発した「I LOVE 遠賀川」の活動は流域全体の人々へと輪が広がり、河川環境や水質保全の意識を高めてきました。この15年間に、河川改修に伴う近自然工法の採用、井堰の魚道の見直し、魚の遡上調査、遠賀川源流の森づくり推進委員会の誕生、デポジット法制化などさまざまな環境保護運動へと発展してきました。そして昨年12月、流域の多くの団体が連携して『遠賀川をきれいにしよう』と、「遠賀川流域住民の会」がスターとしました。

遠賀川流域住民の会では、環境・水質改善10年計画に積極的に取り組み、流域住民・行政機関がともに協働して『遠賀川をきれいにしよう』という共同認識を進めています。また、これ以上資源の無駄使いは近い将来必ず崩壊する、資源循環型社会「デポジット制度」が当たり前の社会を目指すため、デポジット制度法制化を求める運動を推進していきます。

私たちは子ども達に何を残そうとしているのでしょうか。ゴミのあふれた遠賀川でしょうか。子ども達にはきれいな川を残したい、しかし、今の快適で便利な生活は失いたくない、という矛盾が私たちの中にあります。でも、私たちの子どもを思い出してみましよう。子どもころ天真爛漫に遊びました。川で泳いだこと、木に登ったこと、虫やチョウチョウを捕まえたこと、花を摘んで花籠をあんたことなどなど、自然との遊びは子ども時期にはかけがえのない経験なのです。

もし、未来の子ども達が自然と遊べなくなった時・・・。

もし、未来の子ども達から自然を返してほしい、といわれた時・・・。

私たちはこれまで受けてきた快適さの享受をほんの少し、昔の生活に戻すことを考えてみませんか。

まず、

- 1、リフーズ 不必要なものはもらわない（買い物袋持参や包装の簡素化）
- 2、リデュース 不必要なものは買わない（衝動買いをしない）
- 3、リユース 使えるものは何度も使う（デポジット制度 ビール瓶、一升ビン）
- 4、リサイクル 資源の再利用（アルミ缶や新聞紙・古布など）

そして共に行動しましょう。

遠賀川は、九州の一級河川の中でも最も人口密度が高く、都市化が進んだ河川です。また、遠賀川水系の水は流域内 23 市町村の上水道水源として利用されています。私たちの大切な命の源です。遠賀川を守るということは、地域に住む一人ひとりを守ることでもあるのです。

未来を生きる人々への思いを馳せ、「遠賀川をきれいにしよう」と、本日此処に集ったすべての人々と協働して遠賀川の再生に力を尽くすことをここに宣言します。